

## 皮膚障害の悪化を防ぐためのケア

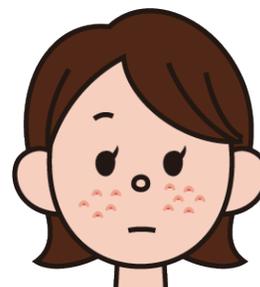
がん・感染症センター 都立駒込病院 看護部 看護師長  
がん化学療法看護認定看護師

春藤 紫乃 先生



## 抗がん剤による皮膚障害とは

がん化学療法中に使用する薬剤によっては、顔やからだにニキビのような発疹ができたり、手足に色素沈着や水ぶくれ（水疱）ができたり、皮膚がひどく乾燥してひび割れたりする皮膚障害が起こることがあります。これは、抗がん剤が皮膚細胞の正常な代謝回転を妨げるために起こります。



## 皮膚障害の主な症状と起こしやすい薬

## 殺細胞性抗がん剤

## ■フッ化ピリミジン製剤

手足に赤い斑点や水疱ができる「手足症候群」（フルオロウラシル、カベシタピンなど）

顔や四肢末端、爪が黒くなる「色素沈着」（フルオロウラシル、S-1など）

## ■タキサン系の抗がん剤（ドセタキセル、パクリタキセル）

爪が薄くなり浮いてくる、爪に線が入ったり爪先が欠けるような「爪の変化」

## 分子標的薬

## ■EGFR阻害薬（セツキシマブ、パニツムマブ、ゲフィチニブなど）

ニキビのような「<sup>そうようひしん</sup>ざ瘡様皮疹」

皮膚が乾燥する「<sup>かんびしょう</sup>乾皮症（皮膚乾燥症）」

巻き爪のように爪の横の皮膚が腫れて痛む「<sup>そういん</sup>爪囲炎」など

## ■マルチキナーゼ阻害薬（ソラフェニブ、スニチニブ、レゴラフェニブなど）

ニキビのような「ざ瘡様皮疹」

手足に赤い斑点や水疱ができる「手足症候群」